

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

特集……P2

ストップ・ザ・無縁社会 無縁社会が私たちに投げかけるもの

5
No.735

みんなでつくるひょうごの福祉……P6

地域の子どもからお年寄りまで、
誰もが気軽に立ち寄れる“ホッ”とする家
～香美町社協「畑の家」の取り組み～

まちとつながる・住民とつながる!
企業・NPOの地域づくりレポート……P7

～地域社会との共生を目指して～
新しいゴルフ場のカタチを追求し続ける
企業の社会貢献活動

地域を駆ける!ワーカー物語……P8

障害のある方も地域の一員
私たちのまちのことは私たちみんなで考えたい
社会福祉法人 みつみ福祉会
みつみ生活サポートセンター 中川優一さん

兵庫県からつなく被災地支援……P9

県社協ニュース……P10

みんなの広場……P11



5月5～11日は
「児童福祉週間」
だよ!



ストップ・ザ・無縁社会 無縁社会が 私たちに投げかけるもの

人と人のつながりが変化し、孤立していく人々が増えてきている。若者であっても家族がいても、周囲から孤立し、つながりがない人々が急増している現象は「無縁社会」と称され、私たちに大きな衝撃を与えた。

県社協では、幅広い関係者、県民と一緒にこの問題を考え、打開策を探るために、今年度から「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンを展開する。今月の特集はキャンペーン展開の第一弾として、兵庫県内の状況から無縁社会の現状とそこから見えることを取り上げる。



「住民の顔がみえなくなる…」
民生委員の悲痛な声

「民生委員の活動の中で『無縁』を痛感する場面はたくさんあります」と語るのは、兵庫県民生委員児童委員連合会会長の加納多恵子さん。親子2人暮らしの世帯で母親が亡くなって数カ月、誰にも気づかれなかったこともあったという。「ご本人が亡くなられた後、精神疾患の息子さんの行動に異変があったり、『ミ』出しの回数が少なくなったりにしていることに気づいていた住民もいましたが、生前はほとんどご近所付き合いがなく、若い息子さんもちたことから残念ながら発見は遅れてしまいました」と加納さんは声を落とす。異臭がすると住民が加納さんに相談したことで発見につながった。民生委員として気になる人がいても訪問を拒む人もおり、どこまで支え合いの関係づくりを呼びかけられるのか、活動の難しさを感じると言っている。

三木市内でふれあいサロン活動を担う民生委員は、「歩いてふれあいサ



話す。リリーフでは、介護事業者などに講演会を行うなど、啓発活動にも取り組んでいる。

無縁社会の背景にあるもの —兵庫県内のデータから—

この2つの事例に限らず、つながりがない、もしくはつながりがうまく機能しないために、生きる意欲を失ったり、支援の手が届かなかったりするケースが増えているというのが地域福祉に携わる私たちの実感ではないだろうか。

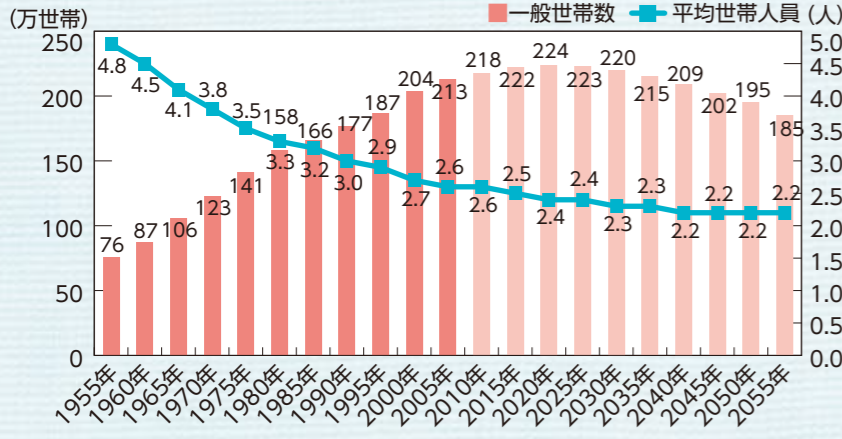
孤独死や自殺までいかなくとも「あや」というケース、誰とも話をすることなく過ごす高齢者、引きこもる若者・壮年、一人ぼっちの子育てに苦悩する母親、失業して途端に生活に困る中年男性。こうしたことは、実は私たちや身近な家族の誰にでも起こりうることであり、実際に地域で起こっている。2年前にNHKが、こうした人や社会とのつながりのない人々が急増している現象を「無縁社会」として取り上げ、大きな反響を呼んだ。次に、兵庫県内のデータをもとにこうした無縁社会を生み出す要因を4点あげる。

家族形態の変化 —一人暮らし・未婚化—

無縁社会を生む要因の一つ目は家族形態の変化である。単身世帯の増加と結婚をしない未婚者の増加がその特徴といえる。これまで一般的に家族の形は、「夫婦と子ども」世帯であった。ところが、2011年10月に公表された国勢調査人口等基本集計では、全国で初めて、単身世帯が子どもがいる夫婦世帯を上



■図表1 兵庫県の一般世帯数の推移予測(2005年までは実績値)



仏壇の前で丁寧に手を合わせ、供養の後で遺品の整理へ—
亡くなった方の遺品整理をはじめとする清掃業を請け負う株式会社「リリーフ」(西宮市)には、年間300件以上の依頼が舞い込み、そのうち1割がいわゆる孤独死だという。事業を始めて2年、年々依頼は増加し、この春からは近畿一円です業展開する。

「孤独死は圧倒的に男性が多いんです」と語るのは、「遺品整理士」の屋宜(やぎ)明彦さん。業務を通して家族や地域のつながりを考えさせられるという。亡くなって2週間以上経過して発見された60代の男性のケースでは、30代の息子とご本人の間で10年間、連絡が途絶えていた。「こんなときに連絡があっても困る」と怒りをあらわにした息子が、1カ月かけて清掃する過程で明るくなったのが印象的だったと屋宜さんは語る。同社の調べによると、孤独死の場合、死亡から発見までの日



孤独死をされた方の仏前に手を合わせる「遺品整理士」

数は男性が平均16・6日で、女性の2倍になるといいます。特に、40〜60代の男性一人暮らしの場合は発見が遅れる場合が多いとつた。

孤独死は一人暮らしに限らない。同居する息子がいるにもかかわらず、亡くなって4カ月経過してから発見されたケースもある。息子に認知症がみられ、近所付き合いがほとんどなかった。

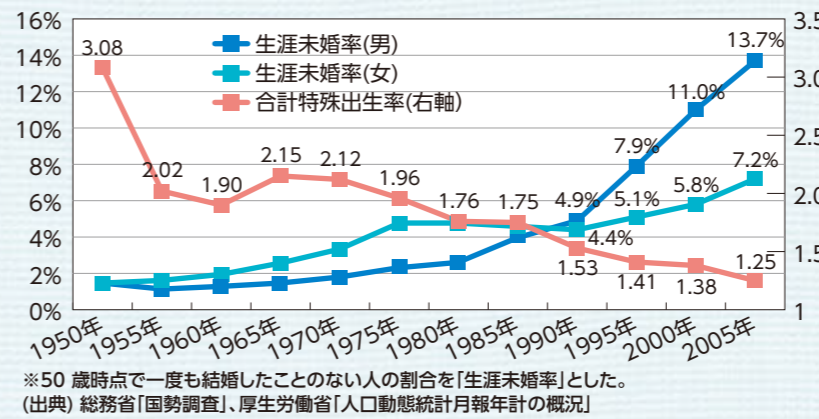
屋宜さんは、「自宅で亡くなる」とが問題ではなく、誰にも発見されずにいることが問題です。孤立を予防することの役に立てれば」と



回り、全体の3割を超えたことが明らかになった。兵庫県内の今後の予測を含めたデータは図表1のとおり。2010年現在で県内の平均世帯人員は2.6人。今後も世帯の縮小は続く見込みである。

次に、生涯未婚率を見てみよう。生涯未婚とは、51歳の時点で独身の人の割合で、全国で見ると20年後には女性の4人に1人、男性は3人に1人が生涯未婚という推計データが

■図表2 生涯未婚率と合計特殊出生率の推移(兵庫県)



※50歳時点で一度も結婚したことのない人の割合を「生涯未婚率」とした。
(出典)総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態統計月報年計の概況」

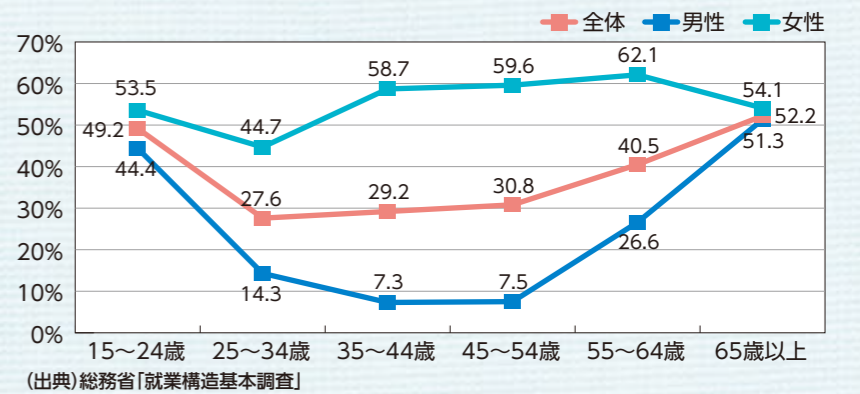
雇用の変化

もう一つ、私たちの暮らしの基盤である雇用形態にも変化が現れている。終身雇用が崩れ、非正規雇用が増大。兵庫県内の非正規雇用の割合は図表3のとおりである。1997年に24%であった非正規雇用割合が、2007年には34.5%と10ポイント増加。特に、若い世代を中心に正規雇用と非正規雇用の差が出てきている。

この結果、これまで親密であった職場内つながりも希薄になり、「必要とされている」感覚が得られにくくなっているのが現状ではないだろうか。また、家族形態の変化と併せて考えると、身寄りがなく、十分な貯蓄もない一人暮らし高齢者が増える社会になることが予測される。

ある。兵庫県内の生涯未婚率と合計特殊出生率の推移は図表2のとおりで、1990年を境にして男性も女性も生涯未婚率が急に上がっている。子どもなどの身寄りがいない一人暮らし高齢者が増え、支え手としての家族の力がますます弱くなった社会の姿がこれらのデータから見える。

■図表3 年代別非正規雇用割合(2007年・兵庫県)



(出典)総務省「就業構造基本調査」

価値観・ライフスタイルの変化

物がかかになり、一人暮らしをしていてもお金さえあれば不自由なく暮らすことができる。近所づきあいの「煩わしさ」から解放され、気楽に生きられる――

私たちのライフスタイルの変化は、確実に人と人との距離感や付き合いうちに変化をもたらしている。これらの背景には、政治・経済・文化など

のグローバルゼーションと、それによる私たちの生き方・生活の選択肢が広がり、価値観やライフスタイルが多様化したことがあげられる。一方、平成20年度の「国民生活白書」に興味深い記事が掲載されている。国民の「幸福度」に関するもので、「所得上昇は幸福度に結び付いていない」ことをデータで示しながら、社会的つながりのある状態が幸福度を高めるという考察を導いている。人とのつながりを避ける価値観・ライフスタイルが、「幸福度」を下げ結果となっている。

地域の支え合いの限界

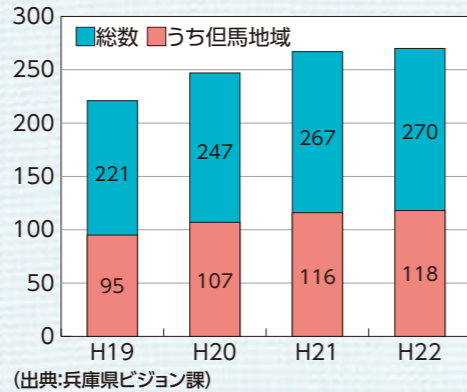
人口が減り、高齢化が進む中、どの地域でも自治会など地域組織の担い手不足に悩んでいる。特に、いわゆる「限界集落」といわれる過疎・小規模の集落では、農業などの生産活動や治水・冠婚葬祭など地域共同体として支え合ってきたことが人手不足から成り立たなくなっている。都市部でも、一部の集合住宅では「オールドニュータウン」問題で、急速な高齢化に悩む。こうした現状から、一般的には「地域の活力が低

無縁社会が投げかけるもの

無縁社会が投げかける問題の大きさに、私たち誰もがたじろいでいるのが現状ではないだろうか。

「無縁社会はイヤだ。何とかしたい」という国民的な合意が得られなかったとしても、特効薬はすぐに見出せないかもしれない。ただ、私たち

■図表4 県内の小規模集落数の推移



(出典:兵庫県ビジョン課)

下しているといわれるが、一方で住民の知恵と力を集めてパワーあふれる地域づくりにも果敢に取り組む地域も多い。しかし、これまで見てきたような構造的な問題を考えると、いざいざにしても、これまで家族・地域が担ってきた支え合いの力に頼ることに限界がきていると言えよう。

一人ひとりが未来の子どもたちにとってどのような社会を残すのか、住民・地域・企業・行政がこれから進む道筋を一緒に考えること、そのための地域発のボトムアップの取り組みが、小地域福祉活動や地域福祉計画づくりをはじめとする地域福祉実践である。

これらの実践の輪をもっと広げるために、兵庫県社協では会員をはじめ県民に広く問いかける「ストップ・ザ・無縁社会 全県キャンペーン」を平成24年度から展開する。次号では、キャンペーンの内容を紹介する。

情報BOX

引用文献・参考図書は次のとおりです。

- 「無縁社会」(平成22年)
著：NHK「無縁社会プロジェクト」取材班
発行：文藝春秋 定価：1,400円
- 「21世紀兵庫長期ビジョン」(平成24年)
発行：兵庫県
※兵庫県のホームページからダウンロードできます。
- 「国民生活白書」(平成20年)
発行：内閣府
※内閣府のホームページからダウンロードできます。

無縁社会から知縁社会へ

NHKによる無縁社会の報道は、私たちの想像を超えて、人と人を結びつける関係喪失の傷が広く深く進んでいることを思い知らせた。今の日本は、都市と農村を問わず気を緩めると、いとも簡単に生活困窮と孤立・孤独の奈落の世界に転落してしまう底の抜けたもろい社会になってしまっている。このような暮らしのセーフティネットが破壊されている問題の原因はなにか、歪んだ社会を生み出した犯人探しはとりえず控えておこう。

人間は人とつながってなければ生きていけない動物である。だれも好きこのんで孤立無援な生活状態になったわけではなく、気がついたら結果として一人取り残されてしまうことがある。他人のことをかまう、おせっかいをやく時間と気持ちの余裕がなくなってしまったのだ。とりわけ、隣人を住民として受け入れ認める寛容さと包容力が弱くなってきたのではないだろうか。地縁が弱くなってきたのは、地域社会を支える職業や世帯など基本構造が変質してきたからである。その結果、縁を結ぶ力の弱い人々は取り残されていく。

知縁社会とは地縁社会をもじった造語である。生まれる前から出来上がっている地域社会ではなく、知り合ったことをご縁につながり合う福祉社会を意味している。無縁社会から知縁社会へというテーマは、なんとか地域社会を仕事と暮らしが結びついていた職住接近の地域社会を再生したいという願いでもある。既存の地縁に依存した地域社会の基盤だけでは、そのネットからこぼれ落ち、すり抜ける人びとをつなぎ止められなくなっている。

意図的、選択的につながりを創り出していく新しい人間関係、つまり知り合ったことを大切に結び合う、「知縁・結縁」の関係づくりこそ新しい時代を切り開く地域社会づくりなのだと言いたい。

関西学院大学 人間福祉学部 学部長
牧里 每治さん



まちとつながる・住民とつながる!
企業・NPOの地域づくりレポート



インタビューを受ける大林社長

地域社会の一員として 企業が取り組む社会貢献
さまざまな社会貢献活動に取り組む、有馬ロイヤルゴルフクラブ(兵庫開発株式会社)。その活動の根底には、「広大な土地を独占して、芝の管理のためとはいえ農薬を散布し、一部の裕福な人しか利用しない、といったようなゴルフクラブのあまり良くないイメージを払拭し、『地域との共存共栄を目指す』という先代の想いを具現化していきたいという思いがある」と代表取締役社長の大林 功さんは話す。「サマーカーニバル」の開催など地域住民との交流の場づくりをはじめ、阪神・淡路大震災当時はクラブハウスを避難所として提供し、被災者の方にレストランや浴場を無料で

開放。また、東日本大震災では「東北自動車道ボランティア・インフォメーションセンター」の運営スタッフとして社員を派遣し、自らもボランティアとして東松島市内の被災家屋の泥出し等を行うなど、精力的に社会貢献活動に取り組んでいる。

「広がりつつある活動の場」
有馬ロイヤルゴルフクラブでは、10年以上前から障害者自立支援の一環として、知的障害者や発達障害者の経済的自立を支援している社会福祉法人「上野丘さつき会」(神戸市北区)と連携し、ゴルフクラブを仕事場の一つとして提供している。仕事としては、コースの管理作業(砂入れ、グリーンの修復作業)をメインに、2年前からリネン室での作業も任せている。また、コース敷地内の旧社員用幼稚園を作業所に改築し、旅行鞆の解体作業やコース管理チームの休憩の場として活用。作業に対して目を見張るような集中力を発揮する障害者は、今では大きな戦力となっているという。現在は、「上野丘さつき会」と契約を結んでいるが、いずれは障害者を直接雇用することも考えている。この福祉施設との連携事業を通じ

兵庫開発株式会社
有馬ロイヤルゴルフクラブ
代表取締役社長 大林 功
昭和45年設立
兵庫県神戸市北区淡河町北畑57-1
<http://www.arima-royal.com/>



作業所にて旅行鞆解体作業を行う様子

地域社会との共生を目指して
新しいゴルフ場のカタチを追及し続ける企業の社会貢献活動

て、有馬ロイヤルゴルフクラブの成果を伝え聞いた他のクラブが仕事先として参加するなど、企業と地域をつなぐ活動の輪が、今、確実に広がりを見せている。

みんなでつくる
ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする
取り組みを紹介します。



自分のお家にいるみたいに“ホッ”とできる、そんな憩いの場が地域にあったらいいね。香美町の畑地区には、「畑の家」っていう民家を利用した憩いの場があるんだって。認知症のお年寄りから子どもまで、地域の人に親しまれているよ。

「自宅を過ごしたい」の
願いに寄り添って

平成19年に地域の民家を活用して生まれた「畑の家」は、誰もが気軽に集える拠点だ。開設のきっかけとなったのは、香美町社協が運営するグループホーム(以下「ホーム」)の利用者Aさんの「自宅に帰りたい」という声。この願いをかなえようと、職員がAさんと共に自宅に帰り、昼間の時間をそこで過ごした経験が、「畑の家」誕生につながった。

以来、ホームの利用者が地域に出かけ、近所の人たちと交流する拠点として、月2回程度の会食会と季節ごとのイベントを実施。「畑の家」に行くのを楽しみに、毎回杖を片手に歩いて会食会に参加する人もいる。

「畑の家」があることで
地域も変わってきた

「畑地区の住民にとって、ホームが『身近な施設』になってきた」と語るのは、畑地区の青山区長だ。以前は地域の人々は「ホームは自分たちとは違う、認知症の人たちが入る施

地域の子どもからお年寄りまで、
誰もが気軽に立ち寄れる“ホッ”とする家

～香美町社協「畑の家」の取り組み～



地域の人と一緒に手打ちのおそばをいただきます



子どもたちとの交流は何よりの楽しみ

知症は自分もなるかもしれない「認知症の人が安心できるまちが住みよいまちや」という認識が少しずつ生まれてきたという。「畑の家」での関わりを通して、ホーム利用者から同じ地域の住民へと住民の視点が変わったのだ。

「畑の家」では、小学生やホームの実習生なども出入りし、子どもからお年寄りまで多様な世代交流が生まれている。地元の幼稚園児と一緒に秋の芋掘りを行ったところ、ホームの利用者が「芋掘りの時のおばあちゃん」と親しげに呼びかけられている。このような地域との関係づくりの丁寧な積み重ねにより、「畑の

家」は確実に地域に根差した拠点となってきた。

地域住民の第二の我が家に

「畑の家」を訪れる人たちは、地域のボランティアと一緒に料理を作ったり、仏壇でお経を唱えたり、昼寝したりと、一日をさまざまに過ごす。「畑の家を自分の家のように感じてもらいたい。もつと沢山の人が知ってもらい、みんなの笑顔が溢れる、憩いの場になれば」とホーム管理者の今西さんは期待する。

誰もが気軽に立ち寄れる地域の「ホッ」とできる場を目指した取り組みはこれからも続く。

取材を終えて

1人の利用者の願いからスタートした畑の家。畑の家での交流がきっかけとなり、気になる人を見かけたら、まずはグループホームへ相談するという地域住民との関係性も出来てきました。誰もが気軽に立ち寄れる場があることから、安心して安全なまちづくりにつながると感じました。

グループホームかがやき
☎0796-36-1500

地域を駆ける！
ワーカー物語

障害のある方も地域の一員
私たちのまちのことは
私たちみんなで考えたい

ワーカーとしての
原点は？

知的障害者入所更生施設で支援員として働いた経験が原点にあります。施設内だけではなく在宅の障害のある方と関わるなかで、自分のまちを障害があっても普通に暮らせるまちにしたいという気持ちが次第に強くなりました。現在は、主に相談支援の現場でコーディネーターとして地域づくりに関わっています。

地域福祉を進める中で一番印象に残るエピソードは？

3年前、相談支援事業で当事者活動に取り組みなかでAさんに出会ったことです。Aさんは車いす利用者の仲間と一緒に「リハビリの場を創ってほしい」と市に要望活動をされており、その一環で自身も何かできないかと障害者スポーツ指導員の資格を取得されました。「仲間の笑顔を取



地域の交流の場としてのスポーツ教室

見るのが好きなんや。せやから、自分もスポーツの指導者になつてみんなに喜んでもらえることをしたい」との想いを聴き、私は車いすサークル活動に必要な市や関係機関との調整などの間接的なお手伝いをするようにになりました。最初は数人程度の活動でしたが、今では30人規模のスポーツ教室を開催できるほどになり、色々な人とのつながりができました。地域のボランティアや高齢

今ホットな活動&力を入れたい活動は？

障害のある方がまちでもっと活動してほしいと思います。これまでの障害福祉制度は、入所施設サービスが主であり、特に重度の障害がある方は、私たちの暮らしから見えにくい施設の中で生活をされてきました。そのため、知らないうち私たちが障害のある人の暮らし姿を考えずにまちづくりを進めてきてしまったのではないのでしょうか。当事者活動のサポートを通して「誰もが安心して暮らすことのできるまち」をみんなで考えていきたいと思っています。

ワーカーとして大切にしていることは？

「誰もが可能性を秘めた存在である

ることを常に心がけています。

取材を終えて

誰もが自分らしい暮らしを当たり前に送れるまちになってほしいと願う中川さん。そのためにはまちづくりを誰かに任せるのではなく、自分のこととして考え、自分のため、仲間のため、そして地域のために一歩踏み出すことが大切だと感じました。

社会福祉法人みつみ福祉会
みつみ生活サポートセンター
なか がわ ゆういち
中川 優一さん
Personal History

- 24歳 社会福祉法人みつみ福祉会に知的障害者施設職員として勤務
施設内と地域の支援を担当
- 30歳 同法人が開設した障害者相談支援事業所の相談支援専門員を担当
- 32歳～現在 同事業所で圏域コーディネーターとして障害者の地域生活支援を担当



兵庫県社協

仮設住宅支援員への研修からみえること

兵庫県社協と市町村社協、NPO、研究者などでチームを組み、宮城県内の研究者とともに仮設住宅支援員等へ研修を実施しています。23年度は基礎研修を計6回実施し、延べ417人が参加、兵庫県からは宮城県内で延べ48人の講師を派遣しました。このほか、市町から個別の依頼で延べ13人を派遣しました。

宮城県での研修の特徴は、仮設住宅等に配置されている「生活支援相談員」「サポートセンターの生活援助員」「市町村独自の緊急雇用対策による支援員」の合同研修として実施したことです。一緒に研修することが、相互に連携して支援をするきっかけとなっています。また、演習型の研修は、参加者間の話し合いから学びを深めるものとなりました。

被災後1年が経過し、失業、うつ、アルコール依存など被災者の抱える問題の深刻化への専門的な対応が求められています。そして、それらに対応するために、支援員の身分保障やスーパーバイズ体制づくりも喫緊の課題です。被災地の要請に基づき、必要な支援をこれからも関係者とともに進めます。

(兵庫県社協 荻田 藍子)

兵庫県からつなぐ被災地支援

兵庫県内の社協、社会福祉施設、NPO、職能団体等の救援活動を紹介します



研修用のテキストが作成・販売されています。購入を希望される方は、NPO法人「全国コミュニティライフサポートセンター」(TEL: 022-727-8730)まで。価格:2,100円(税込)

神戸ぼけっとnet.

神戸へ避難生活中の母子を支援

東日本大震災後、子育て家族層の支援に取り組むため、子育て支援にかかわるNPOの有志が集まり、被災者支援のネットワーク「神戸ぼけっとnet.」を立ち上げました。



「17年前の阪神・淡路大震災当時に子育てをしていた私たち、

ママたちが毎月集まる「親子ごはん会」“神戸のママ”だからこそできることがあるはず」と、子育て支援活動で培った知恵を互いに持ち寄り活動しています。

その中の1つが「親子ごはん会」です。被災地から神戸へ避難生活をしている母子のみなさんは、神戸で何の地縁もなく地域で孤立しがちになります。幼い子どもをかかえ、不安な毎日を送るママたちが月1回集まり、ごはんを作って食べ、情報交換をしています。

(神戸ぼけっとnet. 西森 由美子)

生涯学習サポート兵庫

学生の視点から防災・減災を考える「ワカモノヂカラプロジェクト」

3.11東日本大震災発災以降考え続けた「自分たちにできること」。それはやはりワカモノとともに被災地でチカラを尽くすことではないか。そんな思いから「ワカモノヂカラプロジェクト」は誕生しました。

震災後最初の夏休みを利用して、被災地での直接的な支援を実施。倒壊家屋の瓦礫の撤去や側溝の泥かきのほか、津波で流され泥まみれになった



被災地でボランティア活動に取り組む「若者たち」

記念写真や学童用品などの思い出の品を洗浄する作業も行いました。おそらく犠牲になった子どもたちが使っていた道具…そんな事を考えると、涙を流しながらの作業となりました。

夏以降、被災地でのボランティア活動を経験した若者たちが、兵庫から支援を続けていこうと活動を行っています。震災の風化を防ぐため、被災地への直接的、間接的な支援はもちろん、震災を教訓とした防災・減災のあり方や地域コミュニティの大切さなどを学生の視点から考え、伝えていく活動も実施しています。

(生涯学習サポート兵庫 菅野 将志)

安心生活創造フォーラム開催 ～地域で見守り・支え合いを～

高齢者などの地域からの孤立を防ぐことを目的に、地域の見守り・生活支援体制づくりに取り組む「安心生活創造事業」が、厚生労働省のモデル事業として平成21年度から平成23年度まで全国58市町村で実施された。

兵庫県内では、全国最多の4市で本事業を実施。その成果を報告するフォーラムを3月10日に宝塚



和田氏・中村氏から、各市の取組みに対して講評をいただいた

市内で開催し、200人以上が参加した。

第1部では、内閣官房社会保障改革担当室長の中村秀一さんを招き、社会保障改革の全体像と要点を学んだ。続いて、ルーテル学院大学教授の和田敏明氏から、無縁社会が進む中での社会保障と地域福祉の実践課題について解説いただき、議論を深めた。

第2部では、モデル事業を受けた県内4市から、地域性に応じた特色ある取り組みが報告された。例えば宝塚市の白瀬川両岸集合住宅では、「緊急対応ノート」の作成から活動を開始。その配布だけに終わらず、全戸アンケートと見守り活動に向けたワークショップの実施に

活動が発展した様子が報告された。その他の地域からも、「ボランティアや企業・商店、学生など支え



白瀬川両岸集合住宅協議会の小久保氏からは、住民の立場から実践が報告された

合いの担い手が広がった「丁寧な調査と訪問活動を行い、今までアプローチしづらかった方の把握・支援につながった」などの成果が報告された。本事業の実施主体が行政であったことも、実施体制の確保や個人情報共有の面で大きな成果となった。

「無縁社会」が問題視される今、孤立を防ぐ見守り・支え合い活動に対する期待は大きい。今後これらの成果に基づき、全県的に見守り・支え合いの活動の輪を広げていくよう、県社協としても引き続き情報収集を行い、事業成果を普及するよう努めていく。

寄付について(お礼)

ご厚意に、心よりお礼申し上げます。

兵庫県議会小田毅議員
よりの寄付

2月24日、兵庫県議会議員の小田毅氏より県社協に多額の浄財をご寄付いただいた。本会では、寄付者の意向を踏まえ、平成24年度から推進する「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンなどの各種事業に活用させていただきます。



社会福祉法人における「経営計画策定」の支援に向けて

「社会福祉法人経営計画策定マニュアル(改訂版)」を発刊!

兵庫県社協では、平成19年度より社会福祉法人への経営支援策として、「社会福祉法人経営計画策定マニュアル」等を活用し経営計画策定支援に取り組んできたが、この間の取り組みの中で見えてきた課題や改善点、さらには計画策定の法人へのヒアリング結果などを参考とし、このたび同マニュアルの改訂版を発刊した。

本書は、経営者だけでなく職員リーダー層にも活用できるよう、より実践的な内容となっている。そのため、経営理念・ビジョンの策定、現状分析、経営課題の抽出といった経営計画策定のステップごとに、より多くの事例を掲載し、それに対



社会福祉法人経営計画策定マニュアル【改訂版】

●社会福祉法人経営計画策定支援事業の展開図

目的	事業名
経営計画を“知る”	「経営計画策定研修」→年1回の集合研修
策定手法を“体験する”	「経営計画策定ゼミナール」→兵庫県社会福祉施設経営者協議会との共催事業。全4回で実施
経営計画を“策定する”	「経営計画策定支援・指導者派遣事業」→指導者を法人に派遣し、全4回を通じて導入から完成までの計画策定を支援する
経営計画を“見直す”	「経営計画フォローアップ事業」→すでに計画策定している法人に対し、進捗状況の評価、見直し等を支援する

する丁寧な解説を加えている。

本会では、新たに発刊した改訂版をもとに研修等の事業(別表参照)を実施するなど、今後も経営計画策定支援の充実を図っていく予定である。

※お問い合わせは福祉事業部(☎078-242-1463)まで

みんなの広場

兵庫県社協の会員からの情報発信コーナーです

多様な人たちが緩やかにつながる場 兵庫県宅老所・グループホーム・グループハウス連絡会

こじんまりとまとまるより、バラバラではじけたい

本連絡会は、事業者の集まりと考えられがちなのですが、必ずしもそうではありません。お年寄りや障害を持つ人たちが地域の中で住み続けるための支援について、関係するさまざまな人たちが緩やかにつながっていくことを第一の目的としていますので、集まっている人・法人・事業所は、非常にバラエティに富んでいます。

発会は、平成14年に神戸市で開催された「全国宅老所・グループホーム・グループハウス研究交流フォーラム」に携わったメンバーが中心となりました。介護保険制度施行前からの民間デイの実践者や、グループホームの関係者、コープこうべなどで助け合い活動やサロン活動をしている人たち、ユニットケアに取り組んでいた特養関係者、高齢者居住の問題に取り組む人たち、といった多様な人たちが、フォーラムの事務局を担った兵庫県社協とともに集結した時点で、現在の状況が定まったといえます。

発会後は、一貫して研修事業を中心に取り組んでいます。昨年度は、グループホームやユニット型特養のスタッフ向け研修として、「在宅」生活支援の在り方を考えるというテ



ーマの研修を連続4回行いました。こういったテーマ設定ができるのも、多様な視点から実践を行っている人たちを組織内に有しているからかもしれません。

かつて、「介護は無限」と語った人がありましたが、本人支援のための多様な介護実践の在り方を協働して模索するネットワーク組織を、これからも目指すことを希求しています。ご興味のある方は、ぜひ活動にご参加ください。

連絡先 兵庫県宅老所・グループホーム・グループハウス連絡会 〒660-0052尼崎市七松町3丁目13-6グループハウス尼崎内 ☎&FAX 06-6497-0266 E-mail takurou_gh_net_hyogo@yahoo.co.jp

アピールしたい活動の情報をお寄せください。 お問い合わせ先 兵庫県社協 総務企画部 ☎078-242-4633 FAX 078-242-4153 E-mail info@hyogo-wel.or.jp

INFORMATION・伝言板

助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細については、それぞれの問合せ先にご確認ください。

被災地交流励ましボランティア活動助成事業

東日本大震災等の被災者を励まし交流するボランティア活動に要する経費の一部を助成します。

対象 兵庫県内の地縁団体、市区町社会福祉協議会等および兵庫県内を活動エリアとするNPO、ボランティアグループ等の各種団体

申請条件 被災地で行うボランティア活動で、参加者が10人以上などの条件を満たすこと

助成対象経費 バス借上料

助成額 1日1台あたり助成対象経費の1/2、上限5万円

締切り 1期:平成24年7月31日(火)

2期:平成25年1月31日(木)

④⑤ひょうごボランティアプラザ
TEL078-360-8845

URL <http://www.hyogo-vplaza.jp/>

NHK厚生文化事業団

第24回わかば基金

地域に根ざした福祉活動を展開しているボランティアグループやNPO法人を①支援金部門、②リサイクルパソコン部門③東日本大震災被災地支援金部門の3つの方法で支援します。

助成額 ①1件上限100万円(8~10件程度を予定)②1グループ3台まで(パソコン50台から100台を支援予定)③1件上限100万円

締切り 平成24年5月31日(木)必着

④⑤NHK厚生文化事業団
TEL03-3476-5955

URL <http://www.npwo.or.jp/>

大同生命厚生事業団

サラリーマン(ウーマン)ボランティア活動助成

シニアボランティア活動助成

日ごろは会社などに勤務しながら、休日などを活用して「高齢者・障害者の福祉や子どもの健全な心を育てる交流のボランティア活動」を行っている方々や、「高齢者・障害者の福祉や子どもの健全な心を育てる交流のボランティア活動」を行っている年齢60歳以上の方々の活動に対して助成しています。

対象 ①高齢者福祉に関するボランティア活動②障害者福祉に関するボランティア活動③子ども(高校生まで)の健全な心を育てる交流ボランティア活動で、先駆性、継続性、発展性があり効果が予測できるもの

助成額 総額600万円以内(1件原則10万円、

内容が優れている場合は20万円以内)

締切り 平成24年5月31日(木)

④⑤公益財団法人大同生命厚生事業団事務局
TEL06-6447-7101

URL <http://www.daido-life-welfare.or.jp/>

研修・イベント

平成24年度福祉の就職総合フェア・福祉の就職説明会(予定)

平成24年度は下記の日程により開催します。

- ①第1回福祉の就職総合フェア in HYOGO
平成24年7月8日(日)
(神戸国際展示場 3号館)
- ②福祉の就職説明会AUTUMN in あまがさき
平成24年10月25日(木)
(尼崎市総合文化センターアルカイックホール)
- ③福祉の就職説明会AUTUMN in あかし
平成24年10月31日(水)
(明石市立産業交流センター展示場)
- ④福祉の就職説明会AUTUMN in ひめじ
平成24年11月11日(日)
(姫路商工会議所2階大ホール)
- ⑤第2回福祉の就職総合フェア in HYOGO
平成25年3月2日(土)
(神戸サンポーホール)

④⑤兵庫県社会福祉協議会 兵庫県福祉人材センター TEL078-271-3881

URL <http://www.hyogo-wel.or.jp/>

募集

「24時間テレビ」第35回福祉車両寄贈

リフト付きバス、スロープ付き自動車、入浴車、電動車いすなどを寄贈する、「24時間テレビ」チャリティー委員会主催の福祉車両寄贈が実施されます。

対象団体 社会福祉法人、社会福祉協議会、地方公共団体、NPO法人、任意団体、ボランティア団体、医療法人、学校法人、民法法人(社団・財団)など営利を目的・意図しない団体(入浴車は上記団体のうち介護保険制度の入浴事業認定団体、電動いす・折り畳み式電動車いすは上記団体ならびに個人)

締切り 平成24年5月18日(金)消印有効

④⑤**URL** <http://www.ntv.co.jp/24h/>

平成24年度ひょうごユニバーサル社会づくり賞

誰もが主体的に生き、支え合う社会に向けた取り組みをしている県内のユニバーサルな活動を募集します。

対象 ユニバーサル社会づくりの見本となる率先した活動を行っている、兵庫県内に在住または、活動の拠点を置く個人、団体、企業

発表・表彰 受賞者は公表し、ホームページ等で紹介します。表彰式はユニバーサル社会づくり推進大会(平成24年7月末開催)で行い、賞状と記念品を贈呈します。

締切り 平成24年5月31日(木)

④⑤兵庫県健康福祉部障害福祉局
TEL078-362-4379

URL <http://www.universal-hyogo.jp/>

行事予定

- | | |
|--------|---|
| 5月 7日 | 全国校区・小地域福祉活動サミット企画部会◆こうべ市民福祉交流センター |
| 10日 | 兵庫県ホームヘルプ事業者協議会第1回理事会◆県福祉センター |
| 14日 | 兵庫県社会福祉施設経営者協議会第32回総会・記念講演会◆ANAクラウンプラザホテル神戸 |
| 16日 | 新任リーダー研修◆県福祉センター |
| 21日 | 児童福祉施設新任職員研修◆社会福祉研修所 |
| 25日 | 障害福祉施設系事業所新任職員研修(Aコース)◆社会福祉研修所 |
| 28日 | 県社協第226回理事会・第173回評議員会◆県福祉センター
「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーン推進協議会総会◆県福祉センター |
| 29日 | 保育所新任保育士研修(Aコース)◆社会福祉研修所 |
| 31日 | 老人福祉施設新任職員研修(Aコース)◆社会福祉研修所 |
| 6月 4日 | 福祉行政機関新任職員研修◆社会福祉研修所 |
| 5日 | 介護支援専門員研修・施設職員版(Aコース)◆社会福祉研修所 |
| 7日 | 老人福祉施設新任職員研修(Bコース)◆社会福祉研修所 |
| 12日 | 保育所新任保育士研修(Bコース)◆社会福祉研修所 |
| 14日 | 老人福祉施設新任職員研修(Cコース)◆社会福祉研修所 |
| 18日~ | 介護支援専門員専門研修課程I・更新研修A(前期)◆県医師会館ほか |
| 19日 | 介護支援専門員研修・施設職員版(Bコース)◆社会福祉研修所 |
| 22日 | 障害福祉施設系事業所新任職員研修(Bコース)◆社会福祉研修所 |
| 28~29日 | 社会福祉援助基礎研修(Aコース)◆社会福祉研修所 |

日本興亜損保の集団扱損害保険を始めました!

兵庫県社会福祉協議会 会員の皆様へ

自動車保険、火災保険の他、くらしの安心保険 MUSTⅢを集団扱でお取り扱いします。

くらしの安心保険 MUSTⅢは、日常生活を取り巻くリスクをまとめて補償する保険です

保険料は一般契約より約5%お安くなります!

《引受保険会社》日本興亜損害保険株式会社

保険のご用命は…

取扱代理店
(株)兵庫福祉保険サービス
TEL 078-735-0166
FAX 078-735-1890

受付時間:平日9:15~17:30

(土日、祝日、12/30~1/4を除きます)

